

国語 第4学年 言葉を選んで詩を書き、友達と読み合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の2月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

気持ちが変わったときの様子を表す言葉を選んで詩を書き、読み手に浮かんだ様子と作者の意図を比べる。好みの評価で終わらせず、どの表現によって何が伝わったかを交流する。単元の終わりに残すのは、自作詩と表現の検討メモ。表したかったこと、読み手に伝わったこと、残した語句、直した語句と理由を記録する。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕B書くこと(1)オ	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

単元目標

気持ちや様子を表す語句を増やし、詩の中で意味や響きを確かめて使える。書こうとしたことが明確になっているか感想を伝え合い、自分の詩の表現のよさを見付けられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①気持ちや様子を表す語句を増やし、詩の中で意味や響きを確かめて使っている。〔知識及び技能〕(1)オ	①「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているか感想を伝え合い、自分の詩の表現のよさを見付けている。(B(1)オ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全7時間（書⑦）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○気持ちが変わった出来事を思い出し、そのときの音や動き、色などを言葉にする。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○最も表したいことを選び、語句の響きや並べ方を試す。	知①（語句や内容の整理）
	3	○詩の下書きを書き、声に出して読みながら語句を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	4 （本 時）	○読み手に浮かんだ様子を聞き、表したかったことが伝わる表現を確かめる。	思①（発言・学習記録）
	5	○感想を受け、残す表現と直す表現を決めて推敲する。	学習状況を見て支援する。
	6	○詩を仕上げ、表現のよさを添えて交流する。	学習状況を見て支援する。
第3次	7	○下書きと完成稿を比べ、選んだ言葉の働きを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：書こうとしたことが明確になっているか感想を伝え合い、自分の詩の表現のよさを見付けられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「書いた人が表したかったことは、どの言葉から伝わりましたか。同じ様子が浮かんだ所と違った所はどこですか」 【めあて】気持ちが変わったときの様子を表す言葉を選んで詩を書き、読み手に浮かんだ様子と作者の意図を比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・動きを表す言葉から驚いた感じが伝わった。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「書いた人が表したかったことは、どの言葉から伝わりましたか。同じ様子が浮かんだ所と違った所はどこですか」 自分の詩を読み合い、表したかった場面がどの語句から伝わったか感想を返す。書き手は表したかったことと感想を照らし、自分の詩のよい表現とその理由を記す。伝わりにくかった箇所は言葉や響きを確認し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・動きを表す言葉から驚いた感じが伝わった。 ・同じ言葉の繰り返しが印象を強めている。 ・説明を減らした方が、自分の表したい景色が伝わりそうだと。	作者は先に意図を説明せずに詩を読んでもらう。読み手は印象と、その根拠の言葉を示す。作者は感想を聞いた後で残す表現と直す表現を選び、その理由を話す。 想定する難しさ：技法を使った数でよさを決める。読み手の意見を全て受け入れて作者の意図が消える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 書こうとしたことが明確になっているか感想を伝え合い、自分の詩の表現のよさを見付けている。（自作の詩・相互の感想・自分の表現のよさを記した文）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・説明を減らした方が、自分の表したい景色が伝わりそうだと。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。 次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「書いた人が表したかったことは、どの言葉から伝わりましたか。同じ様子が浮かんだ所と違った所はどこですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

難しさとして、技法を使った数でよさを決める。読み手の意見を全て受け入れて作者の意図が消える。この場合は、作者は先に意図を説明せずに詩を読んでもらう。読み手は印象と、その根拠の言葉を示す。作者は感想を聞いた後で残す表現と直す表現を選び、その理由を話す。おおむね満足できる状況は、書こうとしたことが明確になっているか感想を伝え合い、自分の詩の表現のよさを見付けているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

自作詩と表現の検討メモ。表したかったこと、読み手に伝わったこと、残した語句、直した語句と理由を記録する。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（4年）「4年下巻」93行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）

／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

